

和歌山県立医大付属病院

「研修医本位」の卒後臨床研修プログラムが人気



和歌山県立医科大学付属病院の卒後臨床研修プログラムが、新人医師の研修先として高い人気を呼んでいる。このほど発表された2012年度の「医師臨床研修マッチング」の中間結果によると、

人気ランキングで東大、東京医科歯科大、東京女子大付属病院などに続き、全国の大学病院79病院

中7位に入った。

大学別人気ランキング(1位希望者数の多い順、医師臨床研修マッチング協議会の中間結果より)

順位	病院名	定員	1位希望人数	充足率
1	東大	134	104	77.6%
2	東京医科歯科大	119	96	80.7%
3	東京女子医大	78	61	78.2%
4	九大	88	59	67.0%
5	大阪市立大	64	57	89.1%
6	東京慈恵医大	51	55	107.8%
7	和歌山県立医大	68	51	75.0%
8	京都府立医大	61	49	80.3%
9	北里大	68	48	70.6%
9	京都大	91	48	52.7%

「日本一の研修病院」を目標に掲げる同院は、研修医が自由に学べる仕組みを重視。終了後の県内定着率

も約9割と高く、医師不足に悩む全国の地方大病院のモデルケースとしても注目されそうだ。

地方医大で唯一ランキング

初期臨床研修における大学別人気ランキングは、新人医師と臨床研修先の組み合わせ(マッチング)を行う「医師臨床研修マッチング協議会」がまとめたもので、その大学を第1希望とした医学部6年生の数により算出する。

和歌山県立医大付属病院(研修医定員68人)は、2010年度研修開始分の21位(42人)から、11年度に9位(52人)、12年度には7位(51人)と急上昇。上位10位を東京、大阪、京都など大都市圏の大学や旧帝国大学の付属病院が占める中、地方医大病院として唯一ランキングした。

自由なプログラム

人気の最大理由は、自由度の高い選択制のプログラムにある。3カ月ごとに、研修医自身が希望する診療科や病院、研修期間を自由に選択できる

仕組みで、研修を受ける中での興味の変化に合わせて、2年間を柔軟に組み立てられる。研修期間も自由で、1カ月ずつ3カ所を回ることも、1カ所に3カ月いることも可能。大病院内の特定の診療科で専門性を高めることも、複数の診療科や協力病院を回って幅広い対応力を身に付けることもできる。

各科・各病院の受け入れ定員より希望者が多い場合は、同期の研修医同士で話し合っ決めて。期間中の研修先の変更や、期間延長などにも対応する。

「最初の研修先の診療科が想像以上に面白かったので、当初3カ月と考えていたところを1カ月延長してもらいました」と話すのは、研修1年目の酒谷佳世さん(島根大学出身)。「行きたい科を行きたい分だけ自由に選べるのが魅力。いろいろな科を回って、どの科が自分に合っているかを見極めたい」という。

マッチングによる初期臨床研修制度がスタートした04年度当初は、和医大病院でも病院側が研修



出勤回数も多いドクターヘリ

由選択制を導入した。その理由を、上野雅巳・卒業臨床研修センター長は「能力の高い医師を育てることは、研修医が満足できることと同じ。(診療科の反対はあったが) 研修医の意見だけを聞いた結果、今の研修環境になった」と振り返る。研修医本位の姿勢が人気を呼び、受け入れた研修医数は04年度の33人(定員65人)から、5年後の09年には58人(定員63人)に急増した。

### 地域一体で医師を育成

和医大病院の研修プログラムのもう一つの特徴は、「大病院と地域が一体となって研修医を育てる体制」(上野センター長)だ。

医を配置する制度を採用していた。しかし「思い通りの研修を受けた」という研修医の意見を受け、当初予定していた配置を希望に合わせて柔軟に変更。翌年度には自

臨床研修先として、「日本赤十字社和歌山医療センター」などの大型総合病院や、中小規模の公立病院・民間病院など県内の18施設に加え、「りんくう総合医療センター」(大阪府)や、「町立角館総合病院」(秋田県)、「町立厚岸病院」(北海道)など県外の6施設と協力。研修医が、県内外の計24の地域病院と大病院を、自由にローテート(移動)しながら学ぶことができる体制を整えている。

県内外の難病・重病患者の集まる大病院と、一般的な症例が多く集まり、臨機応変な対応が求められる市中病院の双方で研修することで、「高い専門性と幅広い知見の両方を持った医師を育てる」(上野センター長)のが狙いだ。現在、研修中の片山陽介さん(近畿大学出身)は、この制度を利用して「大病院で基礎を学んだ後、外科に強い病院、救急の多い病院などの特徴のある市中病院を回ってスキルアップしたい」と意気込む。当初、協力病院は県内の7病院だけだったが、研修医が豊富な同院からの人員確保を望む市中病院側からの協力申し出もあり、毎年増加。08年に北海道の2病院、昨年度からは秋田県の1病院が加わり、現在の24施設となった。

### プライマリーケアから高度医療まで

また、和医大病院では、県内唯一の大病院として、高度な専門医療に加え、救急医療(ER)を実践的に学べるのも魅力だ。1次救急(入院の

必要のない軽症)から3次救急(集中治療が必要な重症)まで対応できる「救命救急センター」を持ち、ドクターヘリ拠点も備えた地域医療の「核」として、24時間体制で県内外から救急患者を受け入れている。

同センターは、厚生労働省による全国の救命救急センターの充実度調査で、全国約220施設中7位と高い評価を得ている。今年4月には「高度救命救急センター」に指定されるなど、診療体制が充実。2010年のドクターヘリの出勤回数は384回、救急車の搬入回数は4536回と症例も多い。

研修医は3カ月のER研修を受けるほか、月2〜3回の緊急外来当直も担当。大病院としての高度医療と、幅広い状態の患者のプライマリーケア(基本診療)の手法を同時に学ぶことができる。



ER研修の様子



上野雅巳・卒後臨床研修センター長

### 地域医療体制の安定に

和歌山県立医大病院によると、2011年度の研修医の半数は他大学出身者。片山さんは「異なる大学出身者が集まっていて、いろいろな考えを持った人との出会いがあるのも、この病院を選択した理由の一つ」と話し、「他大学出身でも、診療科の先生方は分け隔てなく接してくれる」と評価。また「研修医のための部屋も1・2年生関係なくオープンなので、上下関係なく相談でき、知り合いも増える」と研修環境にも満足げだ。

和医大病院では受け入れた研修医の約9割が、研修後も医局に所属するなど県内で勤務するとい

図る「和歌山県地域医療支援センター」が設立された。県や医師会などと協力しながら、医師の偏在など地域の医療格差の是正をすすめると同時に、卒後臨床研修終了後も新人医師のスキルアップをサポートする体制づくりを目指している。

### 地方大学ならではの魅力を―上野センター長

研修プログラムの改革に取り組んできた上野センター長は、地域医療支援センターのセンター長も兼ねる。プログラムの意義などについて尋ねた。

―地域病院と協力するメリットは。

良い医師になるには、高い専門性と同時に、目の前のどんな患者さんにも対応できる力を身に付けることが必要だ。大学病院と市中病院で学べることはそれぞれ異なる。大学病院での高度医療と、市中病院での研修もできる和医大病院は、専門性と救急・総合診療医としての能力を併せ持つ医師を育てるには理想的な環境だ。

―自由選択制の研修制度は、病院にとって負担ではないか。

受け入れる各診療科にとっては、研修医を安定的に確保できないため負担が大きく、最初は反発もあった。しかし、研修医を引き付け、研修医が納得できる臨床研修を行うためには、病院の都合で研修医を配置するのではなく、研修医本位で育てる気持が重要だ。

また、研修医を確保したい診療科や病院間に競争原理が働くため、最近は研修医の教育・育成に

熱心に取り組むところが多くなってきた。

―他の地域の大学病院へのアドバイスは。

地域の市中病院と一体となって研修医を受け入れる体制づくりと、全ての大学病院に1〜3次救急に対応した「救急救命センター」の設置を提案したい。歩いて来院する患者さんから、急患、そして高度な専門医療にまで対応できる幅広い能力を育てられる研修環境の提供は、大都市の大学病院にはできない、地域大学ならではの魅力ではないだろうか。

(前田 愛 II 和歌山支局)

### 18歳未満は使用禁止

米カリフォルニア州のブラウン知事は、18歳未満の少年少女を対象に、人工的に紫外線を浴びる日焼けマシンの使用を全面的に禁止する州法案に署名した。知事室によると、これまで厳しい州法は全米初。来年1月1日施行。国際がん研究機関(IARC)は日焼けマシンについて、皮膚がんの一種である悪性黒色腫の発生リスクを警告している。同州では既に18歳未満の使用には保護者の同意を義務付けているが、効果はいまひとつ。ロサンゼルスなど都会では若い女性にむしろ大流行中で「スターバックスやマクドナルドより日焼けサロンの数が多い」(地元紙)ありさま。厳格な対応に踏み切らざるを得ないと判断したようだ。

(ロサンゼルス)